

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-730	16-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Risk Factors Associated With Increased Carotid Intima-Media Thickness in a Male Population With Chronic Alcohol Consumption: A Prospective Observational Study. 飲酒習慣のある男性の頸動脈内膜中膜複合体厚増加に関する危険因子: 前向き観察研究		
執筆者		
Qu B, Qu T, Liu Y, Jia Y, Han X, Su J, Wang H, Liu L, Wang Z, Wang Y, Pan J, Ren G		
掲載誌		
Medicine (Baltimore). 2016 Apr;95(15):e3322. doi: 10.1097/MD.0000000000003322.		
キーワード		PMID
飲酒、頸動脈内膜中膜複合体厚リスク因子、観察研究		27082578
要 旨		
目的： 飲酒者における、頸動脈内膜中膜複合体厚 (carotid intima-media thickness: CIMT) の重症度と、脂質異常症、異常リポ蛋白血症、炎症性免疫マーカーと酸化マーカーとの関連を調査した。		
方法： 2012-2015 年中国の山東省泰山病院に入院した患者のうち、飲酒習慣 (エタノール>40g/日、>5 年) があり、健康診断を受けたことのある 25~65 歳の男性 173 人を対象とした。喫煙、感染症、妊娠、ウイルス性肝炎、肝硬変、心臓・頭部・内分泌・神経および血液疾患、精神疾患のあるものは除外した。超音波検査により測定した CIMT に基づき CIMT<0.09cm を正常、CIMT≥0.09cm を肥厚とし、CIMT 正常者と肥厚者の血液検査指標を Mann-Whitney U-test にて比較した。また、ロジスティック回帰分析により CIMT と血液検査指標との関連を検討した。血液検査項目は、血清脂質 (TC, TG)、アポリポ蛋白質 (ApoA1, ApoB)、炎症性サイトカイン (TNFα, sOX40L, HSP70, E-selection)、酸化マーカー (MDA, SOD) とした。		
結果： CIMT 正常者と肥厚者の比較では、肥厚者の年齢、BMI、血清 TC、TG、ApoA1、ApoB の値が有意に高値を示し (p=0.002, 0.019, 0.021, 0.023, 0.001, 0.001)、TNFα および HSP70 の値が有意に低値を示した (p=0.023, 0.017)。また、ロジスティック回帰分析では、年齢 [オッズ比(OR): 1.077, 95%信頼区間(CI): 1.024-1.130]、ApoB [OR: 6.828, 95%CI: 1.506-30.956]、TNFα [OR: 0.999, 95%CI: 0.998-1.000] が独立した CIMT 肥厚の危険因子であった。		
結論： 飲酒習慣のある男性において、年齢、ApoB、TNFα が CIMT 肥厚に関連する独立した危険因子であることが示唆された。		